

bond

Project

団体について



● 団体名 特定非営利活動法人 BONDプロジェクト

代表者 橘 ジュン

規模 スタッフ5人 ボランティア5人

➤ 設立までの経緯

繁華街での街頭、メールやウェブサイトで少女たちを中心に3000人以上の声を聞き、伝え続けてきた。

様々な子から声を聴いていく中で、伝えるだけでは済ませられない現状を知り、複雑な状況にも対応していく必要性を感じ、2009年に当NPO設立に至る。

➤ 活動理念

「自分の存在が透明」だと感じている子は、少しでも、その「声」を出せる場所をつくって、ほしい。自分のペースで、ありのままの自分

VOICES



活動内容



聴く。

メール相談、面談、パトロール、街頭アンケート等で女の子たちの声を聴くことで、自分を表現できる居場所をつくる。



伝える。

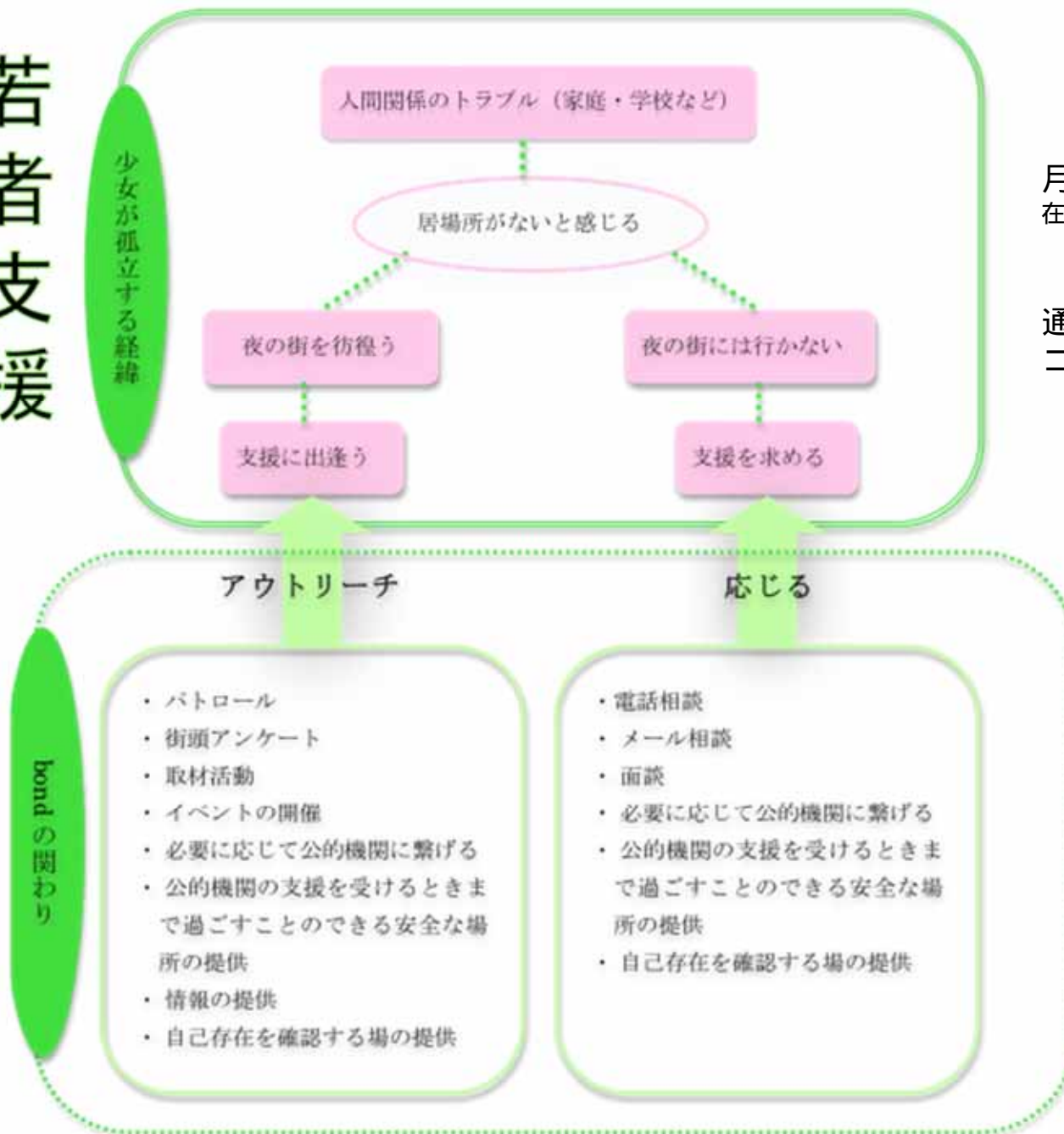
VOICES MAGAZINE 発行
(各号3000部、年3回予定、1~5号自費出版)
講演・イベント
(女の子の生きるチカラとなるようなイベントの開催)
事例研修会
(子どもに関わっている方を中心に、子どもたちが抱える問題などの情報を共有する)



繋げる。

必要な場合は弁護士と連携し、専門機関へ繋げる。(女の子の選択肢を広げられるよう、一緒に考えながら次の支援へ繋げる)

若者支援



メール相談

月平均：2000件以上（H24年現在）

電話相談（週3回、深夜8H）

通話：109件

コール数：500件（H23年）



* 団体と少女の関わりの経緯のフロー図

支援対象者の声

「迷惑とか心配ばかりかけてばっかでごめんなさい。だけど、おもってくれてる人たちがはじめてできたってか、感じる事ができて…」Y(18)

「自分を大切にすることって、むずかしいなと思いました。私は過去の自分を受け入れられなかったのですが、最近は少しずつ受け入れられるようになったと思います。」K(20)

「こんな私と会ってくれてありがとうございます。もし生きてたら、また会ってくれますか？」M(23)

「今日はありがとうございました。bondのみんなと会えて嬉しかったです。なんかあったかったです。」Y(17)

「一緒に見学行ってくれて、泊まってくれて、ご飯も作ってくれて、話聞いてくれて、一緒に考えてくれてありがとう。」S(17)

今後の課題と抱負



●「今」直面している課題

既存の支援ではこぼれ落ちてしまう女性たちがいて、彼女たちを支援するには、時間、場所、お金が必要。

行政の支援に繋ぐまでの時間がかかり、二次的被害などにも繋がる。「今」大変な彼女たちが安心して過ごせる場所を提案できるかが課題。

(シェルター事業 居場所を失った女性の緊急的な避難に対応)

●今後の活動の抱負

24時間対応、常駐できる場所、スタッフの確保

安定した運営資金

繋いだ彼女たちのその後の就労支援

